

オンラインオーディオショウ「Audio Renaissance Online」視聴報告
(2021.4.18) (HP 収載)

1. はじめに

逆木一氏の企画・主催によるオンラインオーディオショウ「Audio Renaissance Online」が開催されましたので、前日に引き続き視聴しました。

<https://kotonohanoana.com/archives/26438>

2. 展示会社等情報

[実施サイト] [YouTube チャンネル【Audio Renaissance】](#)

[タイムスケジュール]

4月18日(日)

10:00～10:30 DS Audio

10:30～11:00 株式会社トライオード

11:00～11:30 オリオスペック/Diretta

11:30～12:00 スペック株式会社

(12:00～13:00 昼休憩)

13:00～13:30 ディナウディオジャパン株式会社

13:30～14:00 株式会社アコースティックラボ

14:00～14:30 シーエスフィールド株式会社

(14:30～14:40 休憩)

14:40～15:10 株式会社アイ・オー・データ機器 (fidata)

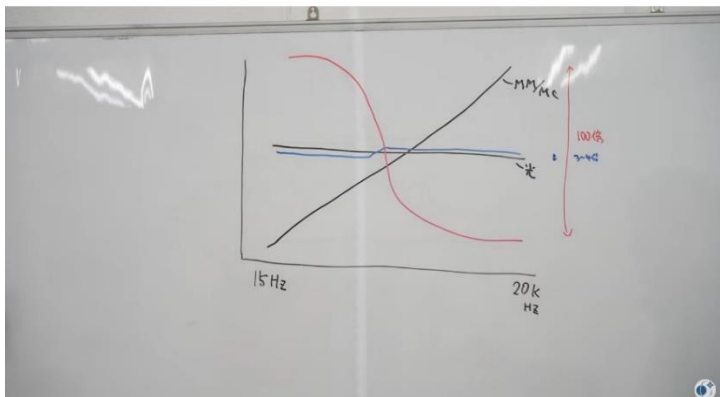
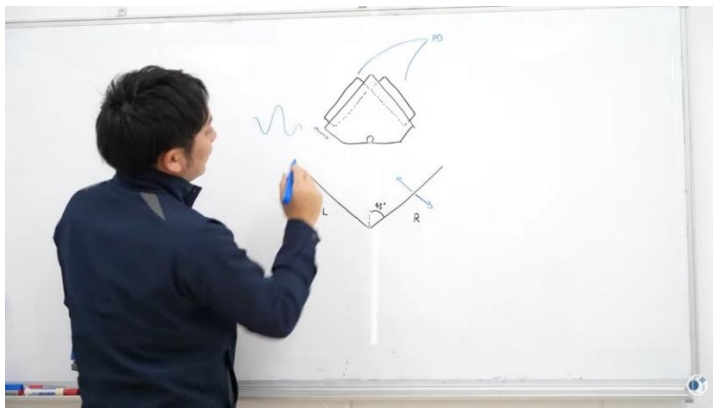
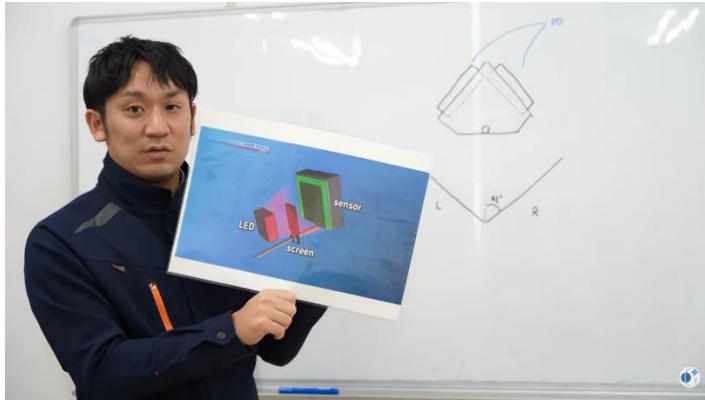
15:10～15:40 株式会社スフォルツアート

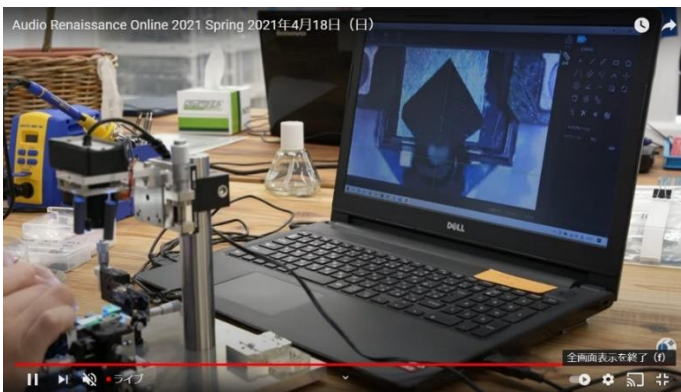
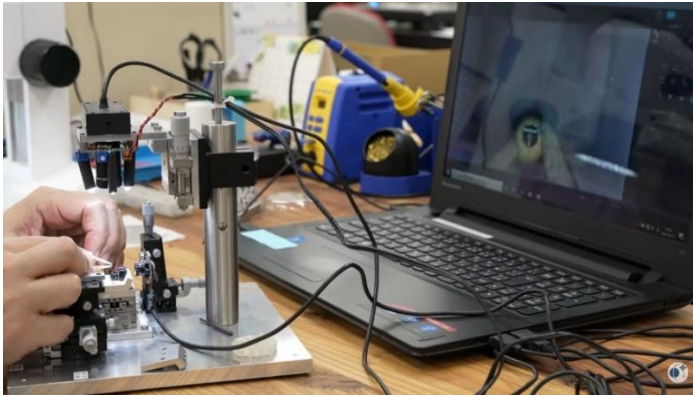
15:40～ エンディング

3. 展示チェック経過

10:00～10:30 DS Audio

DS Audio の光カートリッジの原理とイコライザーについて詳細な説明があり、かつての東芝の光電カートリッジの問題点が、現在の技術でどのように克服されたかの説明もありました。速度比例型の MC カートリッジに対し、LED の光を遮る軽量の遮蔽板による振幅型の発電機構であり、イコライザーもそれに応じたものであることが理解できました。実際の組み立て、調整、検査工程の動画も公開され、最後に課題曲について Master1 と Grand Master の聴き比べがありましたが、ともにきめ細かい表情が良くでていました。







10:30～11:00 株式会社トライオード

CD 再生による下記アンプの聴き比べと真空管の差し替えのデモがありました。

TRX-P88S

TRX-P300S

TRX-P300S-WE300B (ウェスタンオリジナル球使用)

音質としては、上記の再生順に好ましくなる傾向がありました。

後半は、KT150 を使用した MUSASHI と 845 を使用した JUNO845S の聴き比べもありました。



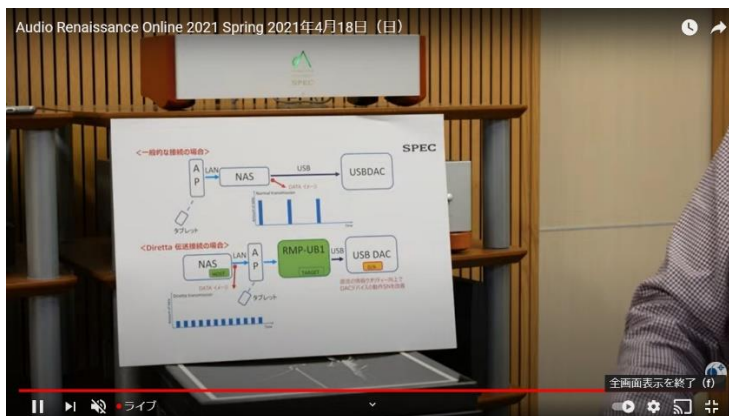


11:00～11:30 オリオスペック／Diretta

前半は Diretta の技術的解説、後半はオリオスペックのネットワークオーディオ関連の動向についての解説がありました。進歩が速く、サポート体制の充実が急務であるという指摘もありました。

11:30～12:00 スペック株式会社

USB DAC を Diretta 対応とする RMP-UB1 をどのように使うかという解説とデモがありました。確かに RMP-UB1 を介在させると細かいニュアンスが出るように感じます。さらに RMP-UB1 SFP モデルと USB-DAC の RMP-DAC1 の紹介もありました。



ディナウディオのスピーカーの変遷から始まり、**Heritage Special** の説明と試聴が行われました。井筒香奈江はクリアーで抜けの良い音ですが、モーツアルトではエッジが効いており、もう少しふくよかな音になってほしいところがあります。



13:30~14:00 株式会社アコースティックラボ

プロ用あるいはオーディオ環境のビジネスをしている会社で、ユーザーとしてスフォルツアートと録音スタジオの代表を迎えての座談会という形式で、実際の設計仕様の紹介がありました。



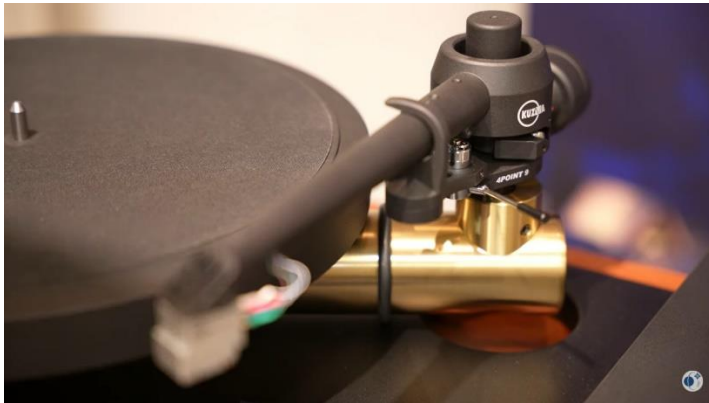
14:00~14:30 シーエスフィールド株式会社

最初にリードソンのCDトランスポート/SSD DACとアンプでベートーヴェンのテンペストと課題曲などの再生がありましたが、非常に滑らかな音がしていました。ついでKuzmaのターンテーブルStabi、4点支持アームの4Point 9、カートリッジのCar 40などの説明があり、アナログ再生のデモがありましたが、これまでのとこ

ろ最上級のパフォーマンスを示していました。

さらにレコード盤の反りを矯正する HFI FLAT.2 処理効果のデモと最後にエレクトロコンパニエのプリの bluetooth 入力の再生が行われましたが、bluetooth 入力の再生でもかなりの音質が確保されていました。







14:40～15:10 株式会社アイ・オー・データ機器 (fidata)

新製品のオーディオグレード CD ドライブ HFAD10-UBX の解説とデモがありました。デモは、通常の CD ドライブとの比較で、課題曲の比較試聴です。

HFAD10-UBX は、パイオニアのドライブを使用し、強固な筐体、マウントの工夫、ノイズ対策、電源強化、USB ハブ機能付与などの説明がありました。課題曲の比較試聴では、通常の CD ドライブとの比較で、明らかに音楽のニュアンスが向上しています。

さらに今後の予定として Soundgenic の Spotify Connect のサポートや fidata AS10 の上級機 AS20 発売予告のアナウンスがありました。fidata での Spotify Connect も検討中とのこと。AS20 では、入出力ポートが大幅に増え、拡張性に富む内容となっています。





15:10～15:40 株式会社スフォルツアート

新ブランドの新製品 DAC01 とトランスポート NT01 の解説とデモがあり、IO データ機器の NAS の Soundgenic から DAC01 直結と LAN ケーブル経由の NT01 から DAC01 への入力と光ケーブル経由の NT01 から DAC01 への入力の比較はありましたが、少しずつの変化はありましたが、それほど大きな効果は感じられませんでした。次にメインブランドでの ZERO LINK の解説に移り、そのメリットについて説明の後、図のような接続の比較試聴がありました。

課題曲のモーツァルトでは、確かに差はありますが、チェロの生音からすればもう少しふくよかなところが欲しいところです。最後に ZERO LINK で井筒香奈江が再生

されましたが、これまでのデジタル音源の中では最上に部類に入る印象です。



Audio Renaissance Online 2021 Spring 2021年4月18日の録画
by 井筒香奈江
「Laidback2018」より



Audio Renaissance Online 2021 Spring 2021年4月18日の録画
by 井筒香奈江
「Laidback2018」より





ゼロリンクの効果 (USB vs. ZERO LINK)





4 . まとめ

DS オーディオの光カートリッジは、再生メカニズムの理解が進み、実際の再生音を聴いてみたいところです。

SPEC の Diretta 対応機器については、導入可能なインフラはすでに揃っていますが、現在メインのソースとなっている配信音源再生での効果が知りたいところです。シーエスフィールドの Kuzma のシステムによるアナログ再生は、前回でも非常に好印象が残っていますが、今回も同様でした。

IO データ機器の fidata S10 を使用していますので、ドライブ HFAD10-UBX には関心があり、Spotify も契約していますので、fidata S10 でも Spotify Connect 対応を期待したいところです。

スフォルツァートの ZERO LINK も興味のあるところですが、今後の動向を見守りたいところです。

以上

